

行事食紹介(センター祭)

栄養科 近藤映美

10/23(水) 創作おやつ

調理師がいちから考えて作りました!



「ほうじ茶ラテゼリー」

豆乳にほうじ茶パックを入れて
濃いめに抽出しました
濃厚な味わいに仕上がりました



「一口大食」

10/25(金) 昼食

メニュー

- ・赤飯/小豆粥
- ・秋さばの柚子味噌焼き
/秋さばの真薯柚子味噌あん
- ・紅葉型人参/人参の甘煮
- ・青梗菜とわかめのお浸し
- ・甘夏みかん/パイン
- ・栗のムース

「普通食」



「やわらか食」



「ペースト食」



「通園食」



昨年度大好評だった
唐揚げです!

メニュー

- ・赤飯
- ・若鶏の唐揚げ
- ・ブロッコリーソテー
- ・紅葉型人参
- ・トマトサラダ
- ・栗のムース
- ・牛乳

〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第562号 発行日 令和6年10月31日

呼吸サポートチーム(RST)の紹介

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 埜 健

東京都立府中療育センター 第35回地域療育講習会
重症心身障害児・者の呼吸障害と呼吸サポートチームの活動
-Web配信-

日時	令和6年9月20日(金)午後2時から4時まで
開催方法	Web配信(Microsoft Teams使用)
対象者	障害児者の看護・介護・支援に関わる従事者や家族
司会	小児科部長 寺川 敏郎
ごあいさつ	院長 伊藤昌弘 14:00~14:05
府中療育センター呼吸サポートチーム(RST)の概要	慢性呼吸器疾患看護認定看護師 埜 健 14:05~14:30 3学舎合同呼吸療法認定士 秋山 伸一
府中療育センター利用者の呼吸障害について	小児科医師 橋本 梨沙 14:30~14:50
休憩	14:50~15:00
呼吸と口腔ケア	歯科衛生士 本田 彩 15:00~15:15
呼吸障害に関係する薬剤について	薬剤師 河井 祐美 15:15~15:25
呼吸に関係する医療デバイスについて	臨床工学技士 大沢 純一 15:25~15:45

当センターの呼吸サポートチームについて、看護師の埜からご紹介いたします。呼吸サポートチームは英語でRespiratory-care Support Teamと書き、頭文字をとってRSTと呼ばれます。一般的なRSTは人工呼吸器を装着する患者の安全な呼吸管理や早期離脱を目的とします。一方で、当センターは人工呼吸器からの離脱に目的を限定せず、もっと広く呼吸器合併症全般の早期発見や進行予防を目的としています。

なぜなら、長期利用者の約半数は閉塞性呼吸障害や慢性気道感染など何らかの呼吸器合併症を有しており、早期発見や進行予防は生命予後だけではなくQOLに大きく関わってくるからです。生活の場でもある当センターで、日々少しずつ変わっていく利用者の呼吸器合併症を早期発見、進行予防し

ていくことは難しいです。そこでRSTには多職種の専門家がおり、医師・看護師・理学療法士・歯科衛生士・薬剤師・臨床工学技士が協働しています。

令和6年9月20日に開催した地域療育講習会では、「重症心身障害児・者の呼吸障害と呼吸サポートチームの活動」というテーマで各職種からお話させていただきました。例えば、歯科衛生士からは呼吸と口腔ケアについてお話をしました。口から食べていないから、もう歯がないから誤嚥性肺炎と口腔ケアは関係ないと思っている方はいませんか?実は、口腔ケアと誤嚥性肺炎の関係はかなり以前から言われており、口腔ケアを行う事で嚥下反射(食べ物を飲み込む反射)や咳嗽反射(異物を押し出す反射)を促すという根拠があります。きちんと口腔ケアを行う事が、誤嚥性肺炎の予防に繋がるのです。また、薬剤師からは呼吸障害に関連する薬剤についてお伝えしました。重症心身障害児・者は薬剤を併用する方も多く、呼吸に関連すると鎮咳薬や去痰薬、抗アレルギー薬など関連する薬は多数あります。しかし、誤嚥性肺炎を直接予防できる薬剤はまだありません。そして、鎮静作用や摂食嚥下作用が緩慢になる副作用を持つ薬剤があるので、減薬も検討していく必要がある事をお伝えさせていただきました。



多職種の専門家がチームで活動しています

このようなRSTの活動を皆様に知っていただき、今後も多職種で力を合わせて当センターの呼吸のサポートを頑張っていきたいと思っております。

外来ってこんなところですよ



みなさん、こんにちは。今回は私、AIRA（アイラ）が外来の紹介をさせていただきます。私は外来のマスコットキャラクターで、昨年のテーマ別改善運動の取り組みで生まれました。外来は、運動に遅れのあるお子さん、知的な遅れや発達につまづきのあるお子さんを対象に、地域とも連携しながらスタッフ一丸となって診療を行っています。

アルファベットのGAIRAI（外来）の真ん中の4文字を取ってAIRAになりました

場所はセンターの1階、総合受付から売店前を通りすぎた先であり、診察室1～9と個別診察室、処置室、装具診室、内視鏡室、在宅支援室があります。診察室1～5と9では小児科や児童精神科、整形外科の診療を行います。診察室6は摂食指導、診察室7は耳鼻科・眼科・皮膚科の診療を、診察室8は歯科の診療を行っています。

外来から病棟へは、眼科、耳鼻科の年1回の定期診察、皮膚科は月3回の診察日に、主治医の依頼で往診に行っています。歯科は定期健診（原則年1回）と随時治療を行っています。通所の耳鼻科検診（年1回）や整形検診（通所利用開始の年、3年に1回）も希望者に対して実施しています。また、体調を崩してお休みしていた園児の通園再開時には、外来で「通園前診察」として診察を行っています。

外来では、みなさんが外来でリラックスして待ち時間を楽しく過ごせるようにと壁面の装飾にも力を入れています。装飾は認定医療デザイナーの資格を持つ看護師が中心となって作成しています。外来受付の前を通る電車のレールは歯科の診療室までつながっていて歯科へ楽しく誘導してくれます。診察室1～5の前には間違い探しのボードがあります。それぞれ5か所の間違いがあり、親御さんと一緒に一生懸命に探して間違いを見つけた時の子ども達の嬉しそうな表情に、私たちも笑顔になります。みなさんも外来にお越しの際は、ぜひチャレンジしてみてください。

かわいい装飾を眺めて
待ち時間も楽しく♪



電車のレールをたどって
歯科診療室へ→



お口を見せてね

吐物処理対策講習会を開催しました

検査科（放射線）主任技術員 斉藤正浩

9月10日（火曜日）、検査・放射線合同（検査科）では、検査室内で入所者や患者が嘔吐した場合の対応力向上のため、「吐物処理対策講習会」を開催しました。ICN（感染管理担当看護師）の指導の下、検査科職員全員が参加しました。

講習会は3部構成とし、第1部では各係それぞれによるビデオラーニング形式による自習を行いました。第2部は講話を中心に、吐物処理対策について説明を受けました。ICNから、吐物によりウィルスが拡散しやすい状況や設備の維持管理ポイント等について、事例を挙げながら具体的に説明をいただきました。第3部では実技を中心に、安全な吐物の処理の仕方、あらかじめ用意しておく物品など、感染対策の基本と予防法を習得するとともに、あわせて自主管理として日常の一般的な感染対策の周知を行いました。感染防護具の正しい着脱方法などについても実技講習を受けました。



参加した職員からは、「行うべき対策が認識できた」「正しい処理の必要性が分かった」など、吐物処理対策の重要性について再認識できたという声が多く寄せられました。

検査科では、これからも施設での様々な感染対策のため、創意工夫や講習会等を通じて安全管理の徹底を図ってまいります。

第16回センター祭開催！（速報）

府中療育センター祭実行委員会事務局

10月25日（金）と26日（土）の2日間、第16回センター祭のイベントが開催されました！

新センターに移転後初めての屋外での開催でしたが、幸い両日ともお天気にも恵まれて、多くの方にご来場いただき盛況のうちにイベントを終了することができました。

センター祭の様子は、次号にて詳しくお伝えする予定です。どうぞお楽しみに！！

